

▽地域の明日を拓く△

深化する土澤フェア

地域経済とコミュニティづくりにかかわる話題として、土澤アートクラフトフェアについて記したい。

▽成長から深化へ

土澤アートクラフトフェア（以下、フェア）は、2008年に始まった花巻市東和町の土沢商店街路と萬鉄五郎記念美術館前庭を会場とした、手作りクラフト品のマーケットである。

詳細な経緯は誌面の都合で省略するが、70数店舗の出店と1万人の来訪者でスタートしたフェアは、今や350店舗、2日間で5万人を超える来訪者が集う全国規模のイベントに成長した。いろいろなジャンルの芸術家が全国から集まり数年おきに開催される現代美術展「街かど美術館」の開催年以外は閑散とする商店街をアートとクラフトで賑やかにできないかと始まったイベントであるが、10年

を経過した現在、開催の意味合いが深化している。

▽稀有かつ無謀

毎年春と秋の連休に2日間会場となる商店街路を歩行者専用にして、公共駐車場はもちろん、土沢地域のありとあらゆる私有地を駐車場として協力いただくクラフトフェアは全国的にも珍しい。しかもスタッフは全員ボランティア。開催経費は一部の助成金を除き90%以上が出店料のみ。はつきりいつて無謀な企画である。

大手のイベント業者なら絶対手を出さない自信（？）がある。なぜなら年4日の開催に多大な労力と費用をかけ、実行委員会としての収益は皆無。肝心の地元商店には飲食業以外に経済効果はほとんどない。私有地借用交渉は複雑の極み。高齢化と人口減少により地



有限会社武政
(花巻市)
取締役(薬剤師)

武政 文彦

元住民のボランティアは希少。野外イベントゆえ、台風や嵐、そして今年(2020年)はCOVID19という感染症に脅かされながらの開催である。
しかし先に記したように開催の意味が深まっていることを実感している。

▽人は何ゆえ土澤へ

第1に、お金で買えない喜びがコミュニティに満ち溢れる瞬間を創出できること。普段人通りのない商店街が数万人で溢れかえる。その光景がある人が「年末のアメ横のようだ」と例えた。人が歩いているだけで嬉しいという感覚は都会人にはわからないだろう。

第2に、「小商い」復活の可能性を示唆したこと。商店街はもともと個人商店による横つながりのデパートのようなもの。それが車優先、価格優先、効率重視の時代の波に押され

消えつつある。一方、大手のスーパー、コンビニでさえ売り上げの伸び悩みが顕著になってきた現在、何ゆえ数万人の客がこのフェアに押し寄せるのか。

人々は買いたいののである。欲しいものがあればお金を使いたい。しかもそこでしか手に入らないものを。この消費者心理に对应しているのがこのフェアであるとするなら、小売りが商店街で成立する可能性があるのではないか。ただし現在のフェアは単発、ギグエコノミー (Gig Economy) の一形態である。その場限りのはかない商売ともいえる。それをコミュニティに定着させることができれば、小さな商店街にも生き残りの道が見えてくる。つまり土沢に定住して小売りを始める人の連鎖を期待したいのだ。そこで昨年、フェアの人脈を生かした実験店舗を仲間と共同で「こつぽら土澤」というテナント付き共同住宅内にオープンした。企業に勤めるだけが労働の形態ではない。起業に関心のある若者をさらに呼び寄せることができるか、ここが正念場だ。

▽リアルな出会いの場

そして第3の深化は、プラットフォームとしてのイベントである。

フェアの形態は手作りクラフト品の野外出場だ。しかし開催を重ねるごとに「体のいい

便乗者」が増えてきた。ダンスグループや音楽集団によるパフォーマンス、アニメキャラクターのコスプレ、親子で参加するハロウィン企画などなど。さまざまな個人、団体がフェアというフィールドで自己を表現したり、楽しみを付加したりしている。そして新たな出会いをここで実現している。ネットでは人が「出会えない」昨今、リアルな出会いの空間を提供している。

▽豊かさとは何か

GDPや労働生産性の成長のみに依存した社会に、少なからず懐疑の目が向けられている現在、土澤アートクラフトフェアの開催を通じて学ぶことは多い。

岩手県は「幸福に関する指標」を提示して豊かさとは何かを追求しようとしているが、日常のさやかな経済活動や地域活動がこれからの社会においてとても大切になるだろうという予感が

する。ただし確証は持てない。何しろ暴走する資本主義の下では、小さな商店街の取り組みなどあまりにも無力と思われ知らされることの連続だったからである。

しかし10年間、「土澤はアートの街だ、アートの街だ」と繰り返し地域住民や来訪者に対し唱え続け、フェア開催など地道な活動を展開した結果、やっとアートの力が見えてきた感触がある。何よりも土澤フェアを通じて深まった地域住民と出店者との交流は、かけがえのない財産である。これらを基盤としてコミュニティがどうすれば豊かになれるのか、豊かさとはお金を貯め多くのモノを所有することなのか、それとも…。これからも試行錯誤を続けることになるだろう。



土澤アートクラフトフェアの賑わい